

寺
ごよみ

四月

一日 お講・下村
一〇日 雪ん子劇団新学期
入団歓迎。

一三日 白鵠会お花見(予定)

一六日 お講・栗虫

一七日 偲ぶ会お経会

二三日 チューリップ花飾り

二四日 お寺の学校開校式

慶びの春、花の誕生会
おしゃやかさま、親鸞さ
ま、そしてご先祖やお
じいちゃんおばあちゃん、
お父さんお母さん
子や孫の誕生を花いっ
ぱいの中でお祝いしま
す。
赤ちゃんが生まれたら
まず初参式で仏さまに
ごあいさつ。
初参式のお申し込みは
電話で。
受式料は三千円です。

寺報

善巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

第 17 回 慶びの春 花の誕生会

初参式、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。

四月二十四日 午前十時より



善巧寺内陣の蓮如上人絵像

蓮如上人といえはすぐに連想
するのが「ご文章」ですが、上
人をはじめ浄土真宗のご法義
を伝えるために、信者にあてた
お手紙の形式の「ご文章」をお
書きになったのは寛正二年(一
四六一)、四十七歳のときでし
た。宛先は近江国(滋賀県)の
金ヶ森に住んでいた道西であつ
たといわれています。

この年は、上人が本願
寺 第八代の宗主となら
れてから四年目でしたが、
ちょうど宗祖親鸞聖人の
二百回忌にあたっていました。
このときの「ご文
章」は、「お筆始めのご
文章」とよばれています
が、短い手紙形式の文体
で、浄土真宗の教えの中
核である信心正因、称名
報恩のいわれが、まこと
にやさしく説き示されて
いました。

このようにお手紙をもつ
て信者にご法義を伝えたり、あ
るいは異端邪説を批判したり、
あるいは念仏の行者の日常生活
を指導されたのは、遠くさかの
ほればすでに法然聖人のうえに
も見られましたが、とくに親鸞
聖人には晩年、関東の門弟たち
にあてられた多くのお手紙があ
ります。おそらく蓮如上人はこ

ご文章について

うした両聖人の先例にならわれ
たのでしようが、現在確認され
ているものだけで二百五十余通
にのぼる「ご文章」が残されて
います。

とくに越前の吉崎御坊にご滞
在中のものがおびただしい数に
上っています。それは文明三年
(一四七一)から、文明七年に
いたる四年間で、上人の五十七

歳から六十一歳のとき
でした。実は本願寺教
団の勢力は、この四年
間に爆発的な進展をと
げ、それまでは見るか
げもない弱小教団であつ
た本願寺が、北陸一円
から日本全土にひろまっ
ていったときだったの
です。

「ご文章」は、その
ときいわば蓮如上人の
分身となつて、在々所々
の僧侶や門徒に語りか
け、信仰と生活を指導
するという役割をはたしていっ
たのでした。

年月はへだたっていますが、
「ご文章」を聞くことは、じか
に上人のご教化にあわせていた
だいているのだということを忘
れてはなりません。

本願寺教学研究所副所長

梯 實 圓 師



空華忌 (1)

行信教校長

利井明弘師

この度は僧鎔和上の二百十一回目の空華忌であります。

二百回の空華忌が盛大に催されてから、もう十一年も経つんですね。

大阪の私の寺には、その十一年前の空華忌の時の写真があります。この善巧寺の境内で、その時ご巡教下さったご門主さまを真ん中にして、大阪から参った私の寺の門徒と私、そして、その端に弟も写っています。これが大変な写真でして、みんなは澄まして写っているのに、ご門主が真ん中で、マイクを持つような手つきで「綿菓子」を持って立っておられるのです。

後に私の寺にご門主がご巡教下さったときに、この写真をお



見せましたら、「これは前代未聞の写真ですねえ」と仰ったものです。(笑)

この前代未聞の写真に、私はもう一つ思い出があります。それは、「綿菓子」にまつわる話なのです。

子供のころ、広島かどこかのお宅に両親に連れていってもらいまして、丁度そこが祭りだったんです。道の両側に縁日の屋台が出てにぎやかでした。一回りして家に帰ってから、弟が「綿菓子」を食べたいと云いだしたんです。母親が歩きながら食べるのは行儀が悪いから、家に持って帰って食べるのですよとお金を渡してくれまして、私と弟はもう一度「綿菓子」を買いに外に飛びだしたんです。

「綿菓子」を手にして、ゆっくりといろんな店をのぞきながら帰ったのですが、ふと気がつくくと「綿菓子」がだんだんしぼんでくるんです。(笑)

私は急いで食べてしまいました。が、弟は母親に云われたことを守って、家まで食べなかったんです。帰ったら割り箸を水飴

に突っ込んだような、もう「綿菓子」の影も形もないんです。そこで弟が泣いたんです。私の家族は「綿菓子」を見ると、この時の話になります。以来、何か大きな催しがあると、庭に屋台を出してもらって、必ず「綿菓子」屋さんを出すことになったんです。二百回の空華忌の園遊会に「綿菓子」が出ているのを見て、隆弘があの時のことを忘れていないかと、懐かしく思ったのです。

あの頃は弟もまだ元気で、僧鎔師の墨筆展を後堂に飾って、色々僧鎔師の話を聞かせてくれました。この善巧寺に古い昔の記録がキチンと残っていて、その中に私たち利井家の先祖の名前が出てくるというのです。

まず、明治十五年頃第百回空華忌が厳修された時、私たち兄弟の曾祖父さんにあたる明朗と鮮妙の兄弟が参詣して、兄の明朗がお導師を勤め、弟の鮮妙がお説教をしたことが記録されているのだそうです。兄の明朗は一代で二度修行長(今の総長)を勤めた人で、弟の鮮妙は本山の勸学でありました。そして、丁度その頃に大阪に僧鎔師の空華学派の流れを汲む、行信教校という真宗僧侶を養成する塾をこの曾祖父兄弟が創設している

のです。そんなご因縁で二人して、この富山の善巧寺の百回目の空華忌にお参りしたのでしよう。この善巧寺の記録には、まだまだ面白い記録があつて、百五十回の空華忌には、鮮妙の息子で私たちの祖父さんにあたる興隆が参つていたのです。ところが、正式なご招待でやつてきたのではなく、自分で思い立ってやつてきているのです。そのところがこんな風に書いてあると隆弘が教えてくれました。

りさせて頂いていることになるのです。そして、残っているのは私一人ということになりました。こうしてみると人生はそれこそ、うたかたのごとしですが、教えは永遠に流れていくものだということをつくづく味あわせてもらえますねえ。

「たのもう」と一人の容貌怪異なお坊さんが、善巧寺の玄關に立ち、いや、本当に「容貌怪異」と書いてあるのだそうです。名前を聞くと、大阪の行信教校の利井興隆だと名乗ったので、とりあえず部屋に案内し、翌日、そう、百五十回の空華忌に番外に一席の法話をお願いしたと記録してあり、いよいよ当日のご法話のところには「説法獅子吼満堂の聴衆感涙にむせぶ」と記録されているのだそうです。

さて、私は今、僧鎔和上がお書きになった『和讃方軌』という書物をここに持っています。二百余年も前に書かれたこの本が出版されたのが、奥付を見ますと、明治十五年となつています。丁度僧鎔師の百回忌にあたる年に出版されたものなんです。これを読ませて頂きながら『和讃』を味わうことにいたしましょう。(次回へつづく)

寺 (こよみ)

五月

一日 お講・音沢

花の会サロンド・ブン

一日 白鶴会だけの料理へ

(予定) 花の会金沢菓子博へ

一六日 お講・音沢

一七日 偈会お経会

二二日 大阪常見寺専精舎

二六日

二五日 仏婦幹部研修会

二六日

真実の幸せにあえる社会を築くために

西本願寺

いのち輝く次代へ

れんにょしょうにん

おんき

蓮如上人500回遠忌総合計画

私たちが、いまお念仏の教えにあわせていただくことができた歴史をたどりますと、親鸞聖人^{しんらんしょうにん}が開きくださった浄土真宗のみ教えを、本願寺第8代蓮如上人が広く世に伝えてくださったことにより、今日の私たちのお寺や教団ができたということができましよう。

蓮如上人^{れんにょしょうにん}は、親鸞聖人が著された「正信念仏^{しょうしんねんぶつ}偈^げ」「和讃^{わさん}」をお勤めとして広められ、「御文章^{ごぶんしやう}」を数多くお書きになって、浄土真宗のかなめをお説きくださいました。上人がだれにもわかりやすくして命がけの伝道をしてくださったおかげで、荒廃した戦国時代の人々に“いのちの灯”をともし、全国各地にお念仏のみ教えが広がってまいりました。

その蓮如上人のお徳をしのぶ500回忌のご遠忌法要^{きぼうよう}が、来る平成10年(1998年)に本願寺でお勤まりになります。そして、このご法要から13年後の平成23年(2011年)に親鸞聖人750回大遠忌^{だいおんき}をお迎えすることになります。蓮如上人500

回遠忌は20世紀最後の宗門にとってもっとも大切なご法要ですが、このご法要をお迎えする態勢に入った今から、「大遠忌」に至るまでの今後約20年間の時代を展望して、21世紀へ向けて、継続性をもった宗門の重要な活動を展開する時代を迎えることとなりました。

今日、予測もつきがたいほどに急速に変化する大きな歴史の転換期のただなかで、家庭も社会も、かつてない深刻で困難な問題に直面することになってきました。人としてのほんとうの幸せはどこにあるのでしょうか…。いのちの尊さとは何なののでしょうか…。そして、地球的規模で人類がこれまで経験したことがない数多くの問題を抱えております。私たちの宗門は、この時代の中で、真実の幸せに生きる社会を築くために浄土真宗のおみのりが真価を発揮し、社会の変化に対応して活躍できるよう、いま「蓮如上人500回遠忌総合計画」を樹立して、実施することとなりました。

富山教区で記念事業

総合計画

本願寺富山別院再建30周年を機に充実発展

富山別院では別院再建30周年を平成8年に迎えるが、これ向けて21世紀の近未来を展望して同別院・富山教区の充実・発展と時代の要請に応える殿堂の復興を願い、記念事業総合計画を策定、この年に蓮如上人500回遠忌・顕如宗主400回忌・本願寺富山別院再建30周年の三法要を厳修することになり、法要の立札式が行われた。

即如門主御巡教

魚津市 法盛寺

6月21日
帰敬式受付中

第十五回読売「ヒューマン・ドキュメンタリー」大賞
カネボウスペシャル応募作品

銀杏の樹の下で

(一)

武良竜彦

この作品は、現地取材、関係者の証言に基づき、その十数年の生と死と愛のドラマのごく一部を、主人公の雪山隆弘・玲子夫妻の娘、雪山有花さんの目を通して（語り）構成したドキュメンタリーです。従って、ここに登場する人物はすべて実名、実在される方々で、記述した内容もすべて実話です。

筆者（武良）は、それを母、雪山玲子さん、娘、有花さんに代わって記録代筆させていただきました。取材に当たっていただき、この作品の公表を快諾していただきました関係者の皆様に、厚く、御礼申し上げます。

お寺の雪ん子劇団

雪ん子劇団……そんなかわいらしい名前の劇団があります。

小学一年生から六年生までの子どもたちで構成される児童劇団です。富山県宇奈月町浦山という所にある浄土真宗本願寺派、白雪山善巧寺というお寺の「若

はん」とその若奥さんが育てたとてもユニークな劇団です。

「若はん」というのは、この土地の言葉で、お寺の跡継ぎ、副住職のことをそう呼んでいます。

私（雪山有花）も小学生のとき、その劇団の一員でした。そして、その副住職夫妻というのが私の両親なのです。父、雪山隆弘、母、玲子。我が親ながら二人ともなかなかの美形で、その血を引く私の容貌もさぞかしと……そこは、皆様のご想像にお任せして、お話を続けることにいたしましょう。

善巧寺の住職の名は雪山俊之。つまり私の祖父ですが、父方の祖父ではなく、母の実父です。

つまり、父、元の名を利井隆弘は、住職の娘である母、雪山玲子と結婚し、副住職としてこの町のこの寺にやってきたというわけです。副住職夫妻である両親がお寺で始めた児童劇団の背後には、いつも二人を暖かく見守るこの住職である祖父の眼差しがありました。祖父は、京都の大学で教授をしていた文学者でもあります。

小学校一年生になっていた長女の私を連れて、両親が東京でのそれまでの暮らしに別れを告げて、この善巧寺にやってきたのは、一九七五（昭和五十）年の七

夕の日のことでした。このとき、弟で長男の俊隆と、次男の教隆はまだ生まれていませんでした。

雪ん子劇団が発足することになるのは、この四年後の、一九七九（昭和五十四）年のことになります。当時は、四年後にまさか、子どもたちのための劇団を結成することになるとは、両親とも夢にも思っていなかったようです。一日も早く、この浦山の人たちと親しくなり、この地に溶け込み、仏につかえる者として、どうすればこの地域の人がとにこ奉仕できるだろう……

そんなことで、二人の頭はいっぱいだったでしょう。

富山県、宇奈月町浦山は、扇のような黒部平野の中にあります。そんな扇状平野のほぼ中央を、黒部川が流れ、平野の山際を富山地方鉄道と県道が走り、その二つの線に寄り添うように人家が広がっています。仏教王国、富山と言われるだけあって、県道沿いには、それぞれ宗派は違いますが、たくさんのお寺があり、地元の人たちは信心深い人たちがかりです。

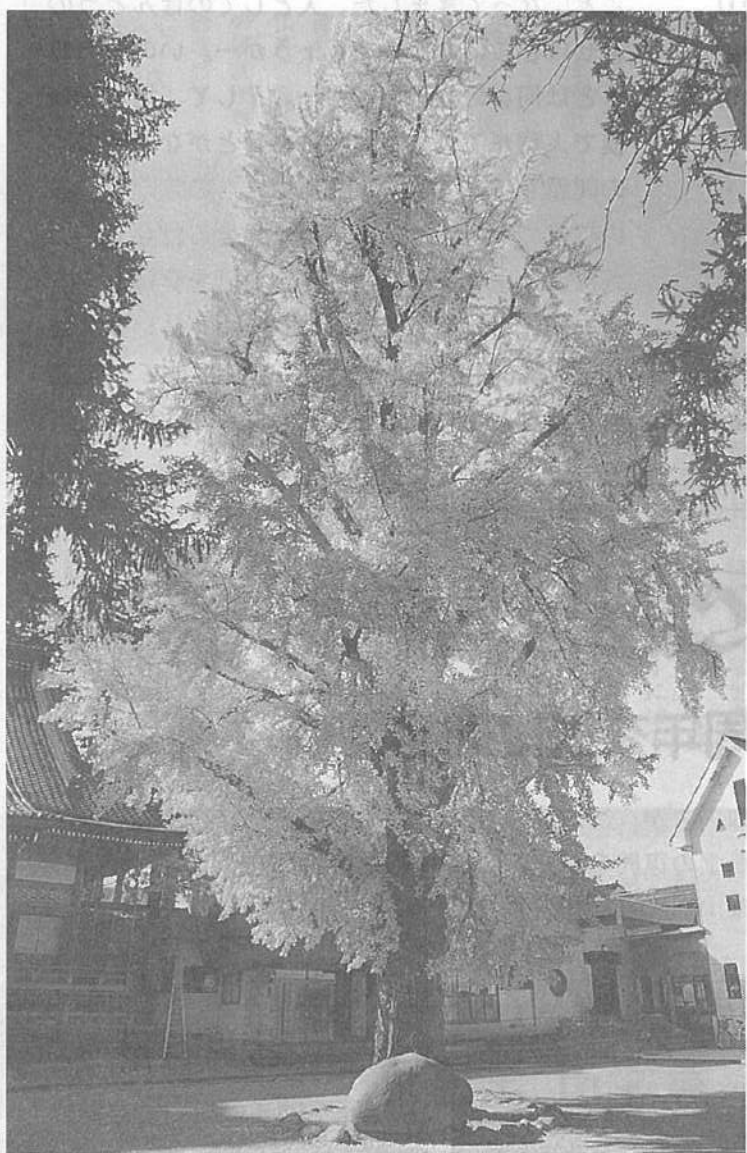
富山地方鉄道の浦山駅は黒部

駅と終点の温泉町宇奈月駅の間点通りに位置し、浦山から黒部と宇奈月には、どちらへもこの電車で三十分ほどで行くことができます。

さて、お坊さんになりたてのピカピカの一年生である父は、まだ正座に慣れていなくて、お勤めの後、必ず足が痺れて立ってなくなったそうです。住職の祖父の後ろに控えてお勤めが終わる、立ち上がったとたんに、

バタッ！

と、畳の上に倒れてしまうことがしばしば。門徒の人々が後



元タリフジカメラマン 安藤徹氏撮影

ろに控えているときに、それをやってしまい、クスクス笑いを浴びてしまったのでした。世話役の人に背負われるようにして退場。笑いは細波のように本堂に広がっていききました。

——こんど、善巧寺さんに来た「若はん」はおもしろい。

善巧寺の門徒である人々はもちろん、それ以外の人々の間で、そんな言葉が交されるようになりました。

お勤めのあと、仏門の大先輩でもある祖父の説教や講話があります。仏の道の話をわかりやすく人々に説くことも、お坊さんの仕事の一つです。やがて父も祖父の法話の後、お話をするようになりました。そのときの、第一声が、

「やつと、正座しても痺れんように、なりまして……」

父が「へおもしろ」かったのは、そういう理由ばかりではありません。

小学生の頃から、NHK児童放送劇団、朝日放送児童劇団に入っていたほど、演劇の魅力にひかれていて、大学も早稲田大学文学部演劇科に入り、劇団四季研究生、劇団青俳演出部など、放送、演劇界に十五年、身を置いて一筋に打ち込んだそうです。

それから転進して新聞記者となり、これもまた同じように情熱的に打ち込みました。ラジオのパーソナルキャスターをやっていたこともあり、話術が巧みで、身振り手振りを交えて話すその表情は豊かでした。話の内容も、最初は世間話か、社会のいろいろなことについての批評から始まり、なんだなんだ、と思つて聞き入るうちに、いつの間にか胸にしみじみとしみ入るような、わかりやすい法話となつていきます。やがて暖かい気持ちを抱えて、門徒さんたちは帰宅するこ

とになるのです。

——若はんのおまけ説法。

それが、その頃の父の法話についた名前でした。住職の祖父の後、おまけで聞かせてもらえらるお話だという意味です。たちまち、父の周りに同年輩の男の人たちが吸い寄せられるように集まるようになり、法事でないときも、僧坊の和室ではいつも、父を囲んで、夜遅くまで談笑する光景がみられるようになっていきました。

——若はんのお茶の間説法。

今度はそんな名前がつけました。

もちろん母も、いつもその輪の中にありました。その輪がやがて「宇奈月、夢を語る会」と

なるのですが、会として正式に発足するのは、この四年後のことです。

静まりかえる湖面に、小石を投げ込んだかのように、両親はこの町に爽やかな細波を立てたのです。「昔は、お寺は法事のときだけ来る場所なんかじゃなくて、みんながいろいろなことで集まる広場だったよな」

この町に来てから二年がたったある日のことです。高島さんの声がします。いつもの僧坊の和室。父の周りに、同年輩の男の人たちの姿がありました。

高島さんは、父と同じお坊さん。父より二歳ほど年下ですが、善巧寺の前にある法輪寺の住職であり、仏道では先輩です。善巧寺の創設者のお弟子さんのために建てられたお寺であるという歴史を持っています。ですから互いに元は同じ寺どうしという親しさがあります。高島さんは父が善巧寺に来て以来、右も左もわからない父のよき相談役を務めてくれた人です。「そうだよ。お寺の本堂や、境内で、子どもの頃、よう遊んだもんじや」

中山さんがすぐ相槌を打ちました。(つづく)

この作品は残念ながら受賞対象にはなりませんでしたが、善巧寺紙上にてご紹介いたします。

永遠の命の輝きを見つめる 夫の法話のすさまじい迫力

ゆきやま
雪山 玲子
善巧寺若坊守



近年「ガン」の告知問題がしきりに取沙汰されていきます。ガン患者であることを公にし、クオリティ・オブ・ライフを重んじて最後を過ごす方々が増えているようです。

私もそのような患者であった者の家族として、心を痛めながらも、心ながら、それらのニュースを聞いています。ひとりで病を患っている方々、冷静にこの病を見る非常にクールな部分を自分の中に感じます。医師の側も患者の状況によって、まだまだ事実を百パーセント言い切れないで

がむかぬかったのですが、ようやく仲間入りさせてもらう時期が来たようです。このガンセンターの医師でもあり、築地本願寺のビハラーにもかかわっている近もマスコミを騒がせているようですが、しかたのないことかもしれません。

感情的にならずにお互いの思いを十分に表現できれば、患者の家族同志が医師を交えて語り合う場が必要なのかもしれません。現にガンセンターで毎月行われている。私もお招きを受けていながらなかなか足

そしてまた、「患者のメッセージ」をしっかりと受けとめた家族は、その死後も実り豊かな生活を送ります。がメッセージを聞けなかった家族の生活は破滅に近いというT先生の言葉にも深く頷いていました。

実際、再発を知り、投薬の効果もないことを認めた夫は、メッセージを伝えることに全力をあげていました。永遠の命の輝きを見つめる夫の法話はすさまじいばかりの迫力がありました。か、生来の、人を笑わせるユーモアとウィットに富んだ夫の語り口は、お聴聞の方にもう笑わざるをえないという感じで笑ってしまふのです。

こんなにサービス精神の旺盛な人は知りません。最後まで人を笑わせ、氣遣っ

ていました。

「自分のことより人のことを考えよう。口癖のように言っていたこの言葉の通りに生きた人でした。み仏のお慈悲の心を、ほんの少しでもいただけたらと願っていました。」

そんな夫と共に過ごして二十三年、別れて三年半の年月が経ちましたが、夫のメッセージは伝え続けられていくようです。「自分より人のことを考える」ということがいかに素晴らしいことかを実感しています。そんな生き方をした人は、自分自身幸せであり、また、周囲をも幸せにすることができ

この三年半、ともかく、表面上だけにしろ、夫の真似をして過ごしてきました。こうしてつたない原稿を

(御堂さん2月号より)

春の総代会・ 教化推進協議会

3月19日

善巧寺の春の総代会は三月十九日に開かれました。今年は先に総代会が開かれ、新総代三人が紹介された後、審議に入り、平成五年度事業報告ならびに決算を了承。今年度予算案を左頁のように決めました。

事業に関しては、七月から住職の入院という障害があつたにもかかわらず、七月の祠堂会、八月の盆会、十月の報恩講、十一月の空華忌と例年通りにつとめられ、お講や門徒報恩講回りさらに門徒法事に至るまで滞りなくつとめられたことはありがたいことでした。これも昭行寺、法輪寺のご協力のおかげ。善巧寺では若坊守、長男、次男が一九となつてつとめさせてもらいました。

偲ぶ会のお経勉強会や雪ん子のチャリティーショーなどの新しい動きも見られ、開かれた寺善巧寺の面目躍如といったところ。予算は問題なく承認されました。

尚、寺費に関しては、寺側から、



白鳩会か

地域によつては一律にという傾向もみられるところから、できれば一律の方向に持っていきたい希望が出されました。時代の傾向も考えて原則として一律とし、事情によつては巾をもたせて考えるということできちんとしました。昭和六十二年の平均九千円をそのままにして一律九千円ということに。

この後、本山で平成十年に勤修される蓮如上人五百回遠忌総合計画並びに富山別院再建三十三周年記念事業総合計画についての説明(三頁参照)があり、本山、別院への懇志をどのように対処していくかが話し合われましたが、結論は次に持越されました。

仏参の後、会館ホールに場所を移して教化推進協議会が行われました。まず野島重一浦山総代から、別院総代会、連研、三日講の報告があり、なくなつた樫副講長のあとを沢田最一総代が引き継がれたことが報告されました。



ら菊地れい会長、夢を語る会から高島有哲さん、育てる会から有馬文義会長、花の会から神子久美さん、偲ぶ会から田中まつ子さんへ雪ん子劇団から雪山有花、連研から神子巧さんが各々報告しました。最後に昭行寺から、内陣のお荘厳、仏具、修復の現状が報告されました。又玄関、台所修理の必要性が提案されました。



白鳩会 総会新年会

3月11日

善巧寺仏婦「白鳩会」の総会が三月十一日に開かれ、五年度の報告や六年度の計画について話し合われました。集まる機会を少しでも多くしようと、お花見や映画鑑賞会を企画することになりました。又今年も「緑の木一本運動」に寄附しました。

太子会 福井参拝へ

3月15日

恒例の太子会が三月十五日営まれました。法要の後参加者十九名が三台の車に分乗して一路福井へ。福井北インターには千福寺住職が迎え下り、福井別院、千福寺、長慶寺、吉崎御坊と、最後までご案内下さつて一同、恐縮したり感激したり。

雪ん子劇団春の公演

3月27日

雪ん子劇団では恒例の春の定期公演が三月二十七日『お寺座』で開催されました。小雪のちらつく寒さにも拘らず、百十余名のファンがつめかけて、子供達の熱演にあつい拍手を送りました。ファイナーでは花束を贈られた八人の卒業生の目に光る涙が、更に感動をよんでいました。



平成5年善巧寺一般会計決算報告

(収 入)	(予算)	(決算)
1. 繰越金	66,134	66,134
2. 布施収入	9,650,000	9,702,440
門徒法要	8,050,000	8,054,600
年中行事	1,120,000	1,120,000
賽銭収入	360,000	391,840
雑収入	120,000	136,000
3. 会費	4,500,000	4,656,000
4. 特別懇志	100,000	200,000
5. 雑収入	83,866	141,318
(合 計)	14,400,000	14,765,892

(支 出)	(予算)	(決算)
1. 人件費	7,440,000	7,440,000
2. 運営費	4,500,000	4,625,554
法要	1,250,000	1,277,207
教化	900,000	903,744
務費	950,000	962,177
議待費	900,000	1,041,922
接雑	200,000	211,631
維持費	200,000	228,873
3. 維持費	1,970,000	2,003,183
宗営	850,000	884,794
保	900,000	901,449
4. 予備費	220,000	216,940
(合 計)	490,000	400,000
	14,400,000	14,468,737
	*差 引	+ 297,155

平成6年善巧寺一般会計予算

(収 入)	(予算)
1. 繰越金	297,155
2. 布施収入	9,730,000
門徒法要	8,070,000
年中行事	1,130,000
賽銭収入	400,000
雑収入	130,000
3. 会費	4,700,000
4. 特別懇志	200,000
5. 雑収入	72,845
(合 計)	15,000,000

(支 出)	(予算)
1. 人件費	7,440,000
2. 運営費	4,600,000
法要	1,250,000
教化	900,000
務費	950,000
議待費	1,000,000
接雑	200,000
維持費	200,000
3. 維持費	100,000
宗営	2,100,000
保	950,000
4. 予備費	900,000
(合 計)	250,000
	860,000
	15,000,000

行信仏教学院も三学期が終わり、はや一年が過ぎた。

三学期は一、二学期のような学期末テストはなく、その代わりにというか、それよりもさらにやっかいな「論文」を提出しなければならぬ。論文は毎年必修で、これを提出し試験を受けなければ、進級、卒業が認められない。この論文はいわば一年間のまとめのようなものだ。

論文は一月三十一日が締切で三月二日に試験を受けた。試験は生徒一人ずつ教室に行き、二人の先生が論文について質問するという形式で、非常に厳しいものだ。先輩方に聞いていた。

私の担当だった先生は、山本

先生と天岸先生。先生は私の論文に目を通すだけでどの程度勉強したかがわかるのであろう。質問を受けながらそんな感じを受けた。今回の私の論文のテーマは「悪人正機」であったが、論文試験のおかげで、この思想がいかに多くの問題を含んでいるかということを知ることができた。今後このテーマは私の課題となる。



若院随想

論文試験も無事に終わり、三月十日、卒業式。その後、京都

信教校で勉学に励みます。六月

ホテルに移り、謝恩会が行われた。校長先生のあいさつに始まり、校長先生がのあいさつに始まり、なごやかなムードになったところ、司会の副幹事さんが先生方・生徒をアトラダムに指名してあいさつを促した。

会もたけなわのころ、学院部卒業生で、校長先生の長女の利井知子さんと婚約された宗崎さんがあいさつに立った。

「私は在家出身ですが、不思議な縁によって、今日、行信仏教学院を卒業させていただきます。四月からは行信教校で勉学に励みます。六月

からは校長先生をパパと呼ばせてもらうことになります。」(笑)

次に校長先生の長男の利井唯明君があいさつに

「私は四月から龍谷大学の大学院へ行くことになりました。(拍手) いずれ行信教校に帰って来ますが、それまで母校の方はお兄さま(宗崎さん)におまかせします。」(笑)

その後、校長先生があいさつの中で

「おやじと呼ぶんならええがパパはかなん。」

と真顔で言ったので、会場が笑いにこみ上った。

行信の違う一面を見たようだなかなか楽しい謝恩会であった。

寺

こよみ

六月

一日 お講・東狐・上野
八日 白鶴会映画鑑賞会
一四日 『野休み落語会』

永六輔・柳家小三治・
入船亭扇橋・内海好江・
花島皆子・入船亭扇辰
一六日 お講・音沢
二一日 御門主ご巡教・法盛寺

リハビリに

通う野辺路のふきのとう

遠望の宮野の山に雪残る

俊之

第十七回 野休み落語会



ご存知「六輔七転八倒・野休み落語会」、今年は六月十四日午後七時半、善巧寺お寺座で開催されます。

出演は永六輔さん、入船亭扇橋師匠、柳家小三治師匠、入船亭扇辰さん。

ゲストは内海好江さんと初クの花島皆子さん。

年に一度のお楽しみ、おさそい合わせどうぞどうぞ。

お代はまだ二千円のまま。

ゲスト 内海好江・花島皆子

●橋本清松さん雪ん子に助成金

昨年のことになりますが、川崎市在住の橋本清松さんがご夫婦で来院、雪ん子へ五十万円の助成金をいただきました。足ながおじさんありがとうございます。

●難民の子どもたちに義援金

昨年末のチャリティショーの純益金十四万円を、国連難民高等弁務官事務所を通じて難民の子供達におくりしました。



花の中の初まいり

赤ちゃんが生まれたらまずお寺の初参式へ

四月二十四日 午前十時

初参りの赤ちゃん受付中

お申込みは四月十六日まで 六五〇〇五五 善巧寺
受式料 三千円

ご近所の赤ちゃんおさそい下さい。

新総代さん紹介

この度新しく三人の総代さんが選出されました。三日市地区は、浦田安次郎さん、浦沢一郎さん亡き後、浦田安次郎さんのご長男の安正さんと、大島清一さんのお二人が選ばれました。

また宇奈月町明日、通称栗虫地区は川内彦一さんから宮崎俊夫さんにバトンタッチ。

善巧寺の心を門徒の皆さんに伝え、寺と門徒さんの間のかけ橋となつて



三日市・浦田安正さん



三日市・大島清一さん



明日・宮崎俊夫さん

いただく総代さん。善巧寺護持発展の為にご尽力いただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

◇◇◇

長年総代を務めて下さった浦山の榎松さん、中村与四松さんが昨年逝去されました。



成人式 卒業式
そして入学
俊隆

長男俊隆は一月九日本願寺で、十五日地元宇奈月町で成人式に出席。また三月十日、行信仏教学院を無事卒業しました。本山賞はとれなかったもののそれにつぐ良い成績だったとか。しかし勉強はまだこれからで、四月からはひき続き行信教校で更に三年間勉学の道を進みます。

報恩講廻り 今年も無事に

昨年の十月から今年の三月八日までかかった門徒報恩講、今年も無事に終了いたしました。善巧寺にとって年に一度の大切な出会いのひとときです。

昼食当番のみなさま、ごちそうさまでした。おいしくいただきました。そのお宅のおみそ汁やお漬物が大変おいしくて、お昼はこれだけで充分です。折角盛沢山のお料理をとっていただいても、報恩講廻りの最中ではとてもいただきますません。来年は、是非お宅のおみそ汁とお漬物でおねがい致します。

合 掌

梯先生の原稿で第一頁を飾らせていただきました。やすむ暇もない位お忙しい先生に無理なお願いをしましたが、「善巧」もぐつとグレードアップして何とも嬉しい限りです。

◇◇◇
住職の入院生活も九ヶ月におよびましたが、この度退院の運びとなりました。四月からは自分の書斎で、見慣れた庭の景色を眺めながら療養することになります。いつでも話をしにきて下さい。

◇◇◇
半年かかった門徒報恩講を無事廻り終えてホッ。資料づくりに頭を痛めた総代会・教化推進協議会も終えてホッ。寺報の原稿を何とかまとめて印刷所に出してホッ。どんじりに控えた、雪ん子劇団春の公演も一週間の連日特訓ののち無事に幕をおろして、ようやく全部力がぬけました。そういえば、例年この時期、隆弘も神経をぴりぴりたてていました。同じ同じ、嬉しい同じしんどさです。

